

こども安心のまち～多機能端末の提案～

提案の背景

良いまちづくりのためには、子供たちが安全に生活できる環境をつくる必要があります。

福岡県が犯罪発生率全国3位であることは有名であり、

交通事故負傷者数も全国3位という結果になっています。

福岡県は住みやすい県だと思っていますが、

子供たちに及ぶ危険も多いため、大人がそれらから守る方法を整えることは重要だと思いました。

そこで、私が考えたのは多機能端末です。

機能としては防犯、防災、交通安全を主として考えました。

順位	都道府県	交通事故負傷者数
1	愛知県	61,576
2	大阪府	57,804
3	福岡県	56,670
4	東京都	54,837
5	静岡県	48,178

出典：警察庁「平成24年中の交通事故の発生状況」



犯罪発生率		
順位	都道府県	発生率
1	大阪府	2.059
2	愛知県	1.968
3	福岡県	1.697

まず防犯のためには、こどもが危険にさらされていることを周囲の大人がいち早く知る必要があります。

端末に防犯ブザーの機能つけることは必ず必要であると思います。

ブザーを鳴らした場所の位置情報を親に通知することももちろんです。

GPS機能、ICタグを端末に搭載すれば、子供の通学で公共交通機関を使用する際に運賃を支払うと親に通知することもできます。

また、登下校の校門通過の際も親に通知を送ることができます。

これらのシステムはすでにPASMO、ミマモルメという名で実用されています。

防災に関しては、端末に緊急地震速報や津波警報、大雨洪水警報などの災害・避難情報を音声または警告音で通知する機能をつける。

加えて、水害の対策として端末が一定時間水没していると親に通知するという機能を搭載すれば、GPS機能と合わせて迅速に救助を行うことができます。

この機能はiSwimband(水没バンド)という名前で普及しています。

しかし国内での販売の予定は立っておらず、

また、iSwimbandは通知可能範囲が100フィート(約33m)のため改良の必要があると思います。

最後に交通安全についてですが、人身事故はドライバーの注意力にかかっています。

危険予知能力のない子供が交通事故に巻き込まれないためには、ドライバーに子供の存在を知らせることが一番効果的ではないかと考えました。

交通人身事故の最も多い発生箇所は交差点です。

そして、大通りの交差点ではなく裏道と呼ばれる道の交差点、

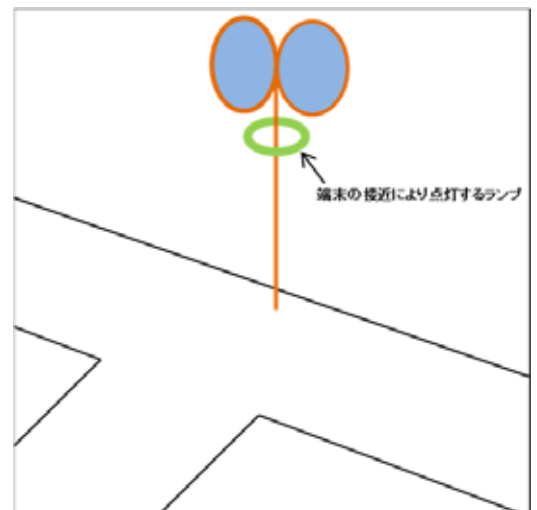
T字路で人身事故が多発しています。

原因は子供の飛び出しで、死角から出てくる子供の存在を

ドライバーが認知できないことが問題だと思っています。

そこで、ドライバーに子供の存在を知らせる機能を

多機能端末に搭載するのはどうでしょうか。



自動車のナビが端末の存在を感知し音声で警告したり、
路地の交差点のカーブミラーにランプを取り付け、ナビの代わりに端末が付近に存在することを
ドライバーに知らせることもできると思います。

ランプは全方向からのドライバーが確認できるよう輪のかたちにし
子供の接近速度などで、点灯・点滅を使い分けるとなお良いと思います。

これらの多くの機能を備えた端末を子供たちに配布し、携行させておけば間違いなく
事故、事件に子供が巻き込まれることは減ると思います。